

## 2024年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年1月12日

上場会社名 ユナイテッド&コレクティブ株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3557 URL <http://www.united-collective.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役（氏名） 坂井 英也  
問合せ先責任者（役職名） 管理本部長（氏名） 畑中 俊哉（TEL）050-3091-3557  
四半期報告書提出予定日 2024年1月12日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年2月期第3四半期の業績（2023年3月1日～2023年11月30日）

## （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	4,641	18.6	68	—	57	—	7	—
2023年2月期第3四半期	3,912	117.3	△897	—	△693	—	△671	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円	銭	円	銭				
2024年2月期第3四半期	—	△2.28	—	—				
2023年2月期第3四半期	—	△204.42	—	—				

（注）2023年2月期第3四半期累計期間及び2024年2月期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
2024年2月期第3四半期	3,933	—	△366	—	△10.0	
2023年2月期	4,214	—	△743	—	△18.1	

（参考）自己資本 2024年2月期第3四半期 △393百万円 2023年2月期 △764百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2023年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—	—
2024年2月期（予想）	—	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無  
2024年2月期の配当予想は未定といたします。

## 3. 2024年2月期の業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	5,980	11.7	38	—	6	—	△63	—	—	△17.23

（注）2024年2月期（予想）の1株当たり当期純利益は、第8回新株予約権の行使を含めた予定期中平均株式数より算出しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年2月期3Q	3,765,800株	2023年2月期	3,454,300株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2024年2月期3Q	180株	2023年2月期	180株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年2月期3Q	3,573,570株	2023年2月期3Q	3,359,500株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(追加情報)	6
(重要な後発事象)	6
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におきましては、ウクライナ情勢の長期化に加えてイスラエル・ハマス紛争が勃発するなど世界経済の先行き不透明感が増す中、わが国経済においても円安進行・物価高騰・実質賃金減少・異常気象など依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、原材料・食材・エネルギー等の仕入価格の高騰・生産年齢人口の減少・スポットワーカーの増加など、原材料費・人件費・水道光熱費といった店舗運営コストの上昇が続いており、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、当社におきましては、当事業年度において通期での営業黒字達成に向け、緩やかな新規出店とトップラインの回復を図りつつ、徹底したコスト管理でCOVID-19以前よりも筋肉質な経営を実現するための取り組みを行っております。

当第3四半期においては、「てけてけ」業態において、居酒屋需要の回復を受け全店の営業時間を延長し、「the 3rd Burger」業態の客足回復が好調な要因である『期間限定メニュー』の導入を行いました。引き続きトップラインの回復に向け、新商品開発やQSC向上の取り組みを推進しております。当期間における出店及び退店はなく当第3四半期会計期間末日における店舗数は80店舗（前年同期比14店舗減）となっております。

以上の結果、売上高は4,641,738千円（前年同期比18.6%増）となり、売上総利益は3,527,823千円（前年同期比23.0%増）、営業利益は68,279千円（前年同期は営業損失897,626千円）、経常利益は57,775千円（同経常損失693,788千円）、四半期純利益は7,748千円（同四半期純損失671,415千円）となりました。

なお、当社は単一の報告セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は3,933,225千円となり、前事業年度末と比較して281,553千円の減少となりました。これは主に現金及び預金が58,796千円、有形固定資産が99,239千円、投資その他の資産が133,073千円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期会計期間末の負債は4,300,102千円となり、前事業年度末と比較して657,978千円の減少となりました。これは主にその他流動負債が72,758千円、資産除去債務（長期及び短期含む）が52,556千円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が524,866千円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期会計期間末の純資産は△366,877千円となり、前事業年度末と比較して376,425千円の増加となりました。これは主に新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ176,225千円増加したこと等によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当会計年度の業績予想につきましては、外的要因による店舗運営コストの上昇傾向を踏まえ保守的に据え置き、2023年4月14日公表の数値から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2023年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,499,154	1,440,358
売掛金	198,184	220,233
商品及び製品	41,706	43,211
原材料及び貯蔵品	122	10,685
未収入金	36,238	10,320
その他	135,181	127,079
流動資産合計	1,910,587	1,851,890
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,594,834	2,455,542
減価償却累計額	△1,370,620	△1,323,368
建物（純額）	1,224,213	1,132,174
その他	502,357	482,839
減価償却累計額	△364,663	△352,347
その他（純額）	137,693	130,492
有形固定資産合計	1,361,906	1,262,667
無形固定資産	8,085	17,541
投資その他の資産		
敷金及び保証金	915,417	783,197
その他	18,781	17,928
投資その他の資産合計	934,198	801,125
固定資産合計	2,304,190	2,081,334
資産合計	4,214,778	3,933,225

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2023年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	219,050	226,636
1年内返済予定の長期借入金	661,247	636,082
未払金	116,757	106,421
未払法人税等	22,466	48,834
賞与引当金	-	8,036
株主優待引当金	30,088	9,450
資産除去債務	53,955	-
その他	394,727	321,969
流動負債合計	1,498,293	1,357,431
固定負債		
長期借入金	3,268,160	2,768,459
資産除去債務	35,462	36,861
その他	156,164	137,351
固定負債合計	3,459,787	2,942,671
負債合計	4,958,080	4,300,102
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	93,085	269,311
資本剰余金	2,025,641	2,201,866
利益剰余金	△2,882,858	△2,864,662
自己株式	△432	△432
株主資本合計	△764,563	△393,916
新株予約権	21,260	27,039
純資産合計	△743,302	△366,877
負債純資産合計	4,214,778	3,933,225

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2022年3月1日 至2022年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)
売上高	3,912,333	4,641,738
売上原価	1,046,222	1,113,914
売上総利益	2,866,110	3,527,823
販売費及び一般管理費	3,763,737	3,459,544
営業利益又は営業損失(△)	△897,626	68,279
営業外収益		
受取利息	11	7
助成金収入	215,440	-
システム導入負担金収入	-	7,570
雑収入	19,417	3,541
その他	1,477	-
営業外収益合計	236,346	11,119
営業外費用		
支払利息	27,903	19,417
その他	4,604	2,205
営業外費用合計	32,508	21,623
経常利益又は経常損失(△)	△693,788	57,775
特別利益		
助成金収入	4,249	-
受取補償金	106,789	-
固定資産売却益	-	8,447
資産除去債務戻入益	-	18,042
特別利益合計	111,039	26,489
特別損失		
減損損失	69,107	9,302
固定資産除却損	111	-
店舗閉鎖損失	4,008	53,693
特別損失合計	73,227	62,996
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△655,976	21,269
法人税、住民税及び事業税	16,154	14,027
法人税等調整額	△715	△507
法人税等合計	15,438	13,520
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△671,415	7,748

### (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

新株予約権の行使に伴い、当第3四半期累計期間において資本金が176,225千円、資本準備金が176,225千円増加し、資本金が269,311千円、資本剰余金が2,201,866千円となっております。

(会計方針の変更)

(貯蔵品に係る会計処理方法の変更)

当社における棚卸資産のうち一部の貯蔵品の評価方法については、従来、購入時に費用処理する方法を採用していましたが、第1四半期の期首より、実地棚卸で把握した貯蔵品を資産計上することにより使用分を費用処理する方法に変更しております。

この変更は、テイクアウト・デリバリー売上の拡大により消耗品商材の点数と金額が増加したことを契機に、貯蔵品の管理体制を見直し、貯蔵品実地棚卸に係る実施体制を確立したため、貯蔵品の評価及び期間損益計算をより適正に行うことを目的にしたものであります。

当該会計方針の変更は、第1四半期の期首において貯蔵品実地棚卸に係る実施体制整備が完了しており、前事業年度末より前の貯蔵品残高を把握していないため、過年度における遡及適用した場合の累積的影響額を算定することが実務上不可能であります。そのため、第1四半期の期首から実地棚卸により未使用分を資産計上することにより使用分を費用処理する方法を適用しております。

この結果、第1四半期の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、第1四半期の期首利益剰余金の期首残高は10,447千円増加しております。また、従来の方と比べて、第3四半期累計期間の販売費及び一般管理費が197千円減少しており、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ197千円増加しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書「重要な会計上の見積り」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する前提について重要な変更はありません。

(重要な後発事象)

(第8回新株予約権の行使による増資)

2023年12月1日から2024年1月12日の間に第8回新株予約権の行使が行われており、当該新株予約権の行使により発行した株式の概要は以下のとおりであります。

- ① 行使新株予約権の個数 1,035個
- ② 資本金の増加額 54,302千円
- ③ 資本準備金の増加額 54,302千円
- ④ 増加した株式の種類及び株数 普通株式 103,500株

以上の結果、2024年1月12日現在の発行済株式総数は3,869,300株、資本金は323,614千円、資本準備金は1,014,891千円となっております。



### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、COVID-19の感染拡大を受け度重なる営業活動の自粛やアルコール提供の中止、時短営業等を行ってまいりましたが、前事業年度末において債務超過に陥ったことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況の存在について認識しております。なお、前事業年度末の資金残高の状況及び今後の資金繰りを検討した結果、当面の事業活動の継続性に懸念はございません。加えて、当該重要事象等を解消するため、不採算店の撤退及び本社の縮小移転等による抜本的なコスト圧縮、資金調達及び資本政策の実施など対策を講じております。

このような状況の中、当事業年度におきましては、「てけてけ」のリモデル店舗及び新業態・新商品の開発、既存業態の店舗QSC向上・管理体制強化によりトップラインの早期回復を図り、戦略的な退店を推し進め本社を縮小移転するなど店舗固定費や本部管理コストを大幅に削減することで、通期の売上高5,980百万円、営業利益38百万円の黒字着地を見込んでおります。なお、当第3四半期累計期間では、計画を上回る営業黒字に着地しており、通期においても計画を達成できる見込みと認識しております。

以上のことから、現時点での当社における継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。